

## 平成22年度第5回山形県教育懇話会(平成23年2月17日開催)

### 委員発言要旨

#### <パブリック・コメント等への対応、及び答申(案)について>

##### (阿部委員)

###### [家庭教育]

- 「基本的な生活習慣、他人への思いやり、善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを養う上で、家庭は大きな役割がある」ということだが、そのためには、家庭で自尊感情や自己肯定感を育てていくことが大切である。家庭教育にとどまらない重要なテーマだと思う。

###### [幼児教育]

- それぞれの幼稚園、保育園が、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」を確実に実施していくことが大切だが、幼稚園、保育所には私立のところがたくさんあって、それぞれ特色ある教育活動が展開されているので、その辺とどのようにバランスをとっていくのが重要になってくる。

##### (五十嵐委員)

###### [読書活動]

- 「本を読まない児童生徒をなくしていく」ことが必要だ。生涯学習の基盤として、本を読むことができるということが大切になっており、本を読まない、読めない子どもをなくしていくことが重要だ。
- 鶴岡市立朝陽第一学校が「学校図書館大賞」を受賞した際、当時の竹屋校長が、「学校図書館活用教育」という言葉を初めて使った。そして現在、普通に使われるようになっており、この言葉を使ってはどうか。

##### (池田委員)

###### [計画全般]

- 答申(案)の内容は非常に良いのだが、それぞれの施策項目をつなぐ部分が大切だ。評価は評価、研修は研修として、これをつなぐ部分が見えてくるようになると、もっと良いものになる。

###### [情報教育]

- 5年後、ネット社会がどうなっているのか想像もつかない。今日、インターネット等の「負の部分」が大きくなってきている。情報モラルにも言及しているが、学校任せでは駄目であり、具体的な取組みが必要だ。

###### [郷土・地域学習]

- 今現在、社会で活躍している人材を活用していくことが大切であり、各学校で積極的に取り組んでもらいたい。直接の出会いが、それぞれの夢を具体的な目標に変え、そして主体的に努力する態度をはぐくんでいく。

〔教員採用〕

○教員は、学校で鍛えられながら「優れた教員」になっていく。はじめから優秀な人材を集めてきて、それで学校が上手くいくというものではない。子どもたちと真剣に向き合う中で、教員や学校はつくられていく。

### (内ヶ崎委員)

〔重点施策〕

○よく「早寝・早起き・朝ごはん」と言われるが、医学的には、早寝をすれば早起きができるのではなく、早起きすると早く眠ることができるようになって、生活のリズムが改善されていく。できれば、「早起き、早寝、朝ごはん」としてはどうか。

〔特別支援教育〕

○一貫した支援を行うということは大変重要なことだ。発達障がいや知的障がいの子どもたちが進学するたびに、その子どもに関する情報が途切れてしまって、学校では最初からやり直しになって、結局不適応を起こしてしまうということがある。これが高等学校までではなく、大学にもつながっていけば更に良くなると思う。

### (大場委員)

〔家庭教育〕

○家庭教育では思いやりの心をはぐぐむことも大切であり、そうした視点から文言を追加してはどうか。

〔読書活動〕

○「読育」という新たな言葉が使われているが、これを見て、何をどのように、どう指導すればよいのかが、今ひとつ具体的に見えてこないのが気がかりだ。「読育」の説明が必要なのではないか。

〔教員が意欲をもって能力を発揮する〕

○教員は、同僚と一緒に、いいものをつくり上げていこうとする気持ちがあると良い。教員同士のコミュニケーションを良くしていくことが校長の仕事であり、そうしたことが学校を元気にするのではないか。

### (鎌田委員)

〔幼児教育〕

○幼児期における運動の重要性が指摘されている。「幼児共育」の取組みとして、自然の中での運動体験や、運動につながる内容を記載できないか。

〔生涯スポーツ〕

○生涯にわたり誰もがスポーツに親しむ環境づくりの観点から、多岐にわたりきめ細かに記載されている。

〔教員採用〕

○使命感をもって、自分が望む教育を提供することができるように、地域の特色も活かしながら学校を運営していくことが大切だ。外部の力を入れることも必要だ。

### (國眼委員)

〔幼児教育〕

○幼児期の教育も重要だが、実は乳児期からの教育が大切だ。厚生労働省と文部科学省で管轄が違うのかもしれないが。乳児期の健診などの機会を活用して、孤立している母親も含めて様々情報交換等ができるような場を設けてはどうか。

[キャリア教育]

○「職業人として必要な人間性を養う」ことは大切だが、コミュニケーション能力を養うことも必要だ。キャリア教育では、単に職業観、勤労観ということだけでなく、社会人としてのコミュニケーション能力の育成にも相当に力が入れられている。

[教員採用]

○目標指標は、教員採用試験志願倍率とあるが、それなりの競争試験を潜り抜けてきた方が適切だという考えだと思うが、小・中・高を個別に見た場合、現実には大きく異なる倍率を一括りにするのはいかがなものか。

**(寒河江委員)**

[N I E等の推進]

○「N I Eの推進」を記載してもらったことに感謝すると同時に、もう少し力を入れて指導してほしいという思いもある。新学習指導要領に盛り込まれ、今後、N I Eをどのように展開していくのか、教員の関心も高まっている。

[郷土・地域学習]

○郷土にまなび、郷土を大切にすることは、自分を大切にすることにつながる。もう少し山形を、故郷のことを知ってほしい、勉強してほしいとの思いで申し上げてきた。

**(柴田委員)**

[計画全般]

○5教振は、すごく前進していると思う。5教振以降、教員の取組み方も違ってきた。その意味では、成果をしっかりと認めていくことが大切であり、これまでの取組みの成果があって、今回の見直しがあるということをもっと取り上げるべきだ。

[学校経営]

○教育活動の主役は教員であり、子どもたちである。「マネジメント」はその黒子役であるという趣旨を加えてはどうか。「マネジメント」は、現場の教育をうまく運営することを支える道具である。

[時代にふさわしい能力を身につける]

○目標指標の「英検」合格者数については、人数ではなく、合格率で示すべきだ。

[教員が意欲をもって能力を発揮する]

○目標指標の達成率が、現在の77.1%から、80%を目指すということに、若干の違和感を持つ。

**(角屋委員)**

[計画全般]

○パブリック・コメント等の意見に、自分よりもさらに厳しい意見があった。それに対する考え方も、よく反映されているので大変ありがたい。

○抽象的かもしれないが、最近の風潮として、手法が目的に変わってしまい、数をこな

せば評価される傾向があるが、質にこだわってほしい。目的をしっかりと押さえて、原点に立ち返って取組んでほしい。

○計画の内容と、現場での取組みが乖離しないことを期待し、お願いもしたい。

### (高山委員)

#### [読書活動]

○読書活動の目的として、最終的には、心豊かな生涯学習者を育てていくということがあるのではないか。

○「読育」の言葉にはこだわらず、「読書活動の推進」でもよいのではないか。

○家庭教育や幼児期の教育の重要性の観点からも、ブックスタートや読み聞かせ、「家読(うちどく)」などを明記してはどうか。

○県立、市町村立はじめ、学校図書館、地域のNPOや読み聞かせサークル団体などボランティア同士の連携も始まっている。単に環境整備にとどまらず、県民の読書活動を推進する活動面からも明記してはどうか。

### (無着委員)

#### [特別支援教育]

○「交流及び共同学習」は、障害がある子どももそうでない子どもも、お互いの学び合いという点から大切なことだ。本来、日常の生活全てにおいて、そうことが基本になるべきであり、大切にしてほしい。

○子どもたちを通して親も育てており、学んでいると思う。生きていく上で、人とのかわり、つながり、どのように生きていくかを見据えた教育は、とても大事なものだ。

#### [教職員評価]

○教員を縛って伸び伸びと教育ができない、教員一人ひとりの思いが反映できない評価であれば、それは本物ではない。それぞれの良さを活かしながら、教育に取り組むことができる、子どもと向き合うような、温かみのある評価が望ましい。

### (山口委員)

#### [パブリック・コメント等への対応]

○家庭の教育力が低下してきていることに対して、地域が立ち上がって、県民運動としての取組んでいくべきとする意見には、同感である。この5教振を、広く県民に周知し、展開していくべきだ。

#### [生涯学習]

○置賜地域では、生涯学習や伝統文化の取組みに、公民館が大きく関わっている。これに5教振がいかに関わり、その力をいかに活かしていくのか、もう少し踏み込んで捉えるべきだ。

#### [県民協働による教育]

○「教育に対する県民参加の気運を醸成するための取組み」については、検討するだけでなく、実現に向けて取組んでほしい。

以上